



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第四十四号〕

寒露

十月八日

宇治の大神輿

内宮前の宇治の二大祭りといえば、八月二十一日の宇治神社の例祭と十月十七日のおおまつりです。内宮が十六日の夜に神嘗祭の大御饗祭が行われるのにちなんで、翌日の十七日というのが恒例となっています。

お祭りはおはらい町が舞台。小学生の鼓笛隊から、ゆりの会の皆さんが揃いの着物で踊る伊勢音頭、宇治の大神輿と呼ばれる神輿が猿田彦神社から出ます。以前は大人が担ぐ大神輿は夜と決まっていたいましたが、おまつり青年会の提案で、今では大人も子どもも一緒に昼間に担ぐようになりました。宇治の大神輿は素木造り。よそは朱の色を施した金ピカのものが多いですが、素木造りの伊勢神宮の社殿に合わせてのことでしょう。

神輿は文字通り、神さまの乗る輿。源頼朝が八幡神を鎌倉に勧請した時に貴人の乗り物である輦輿に乘せて案内したのが始まりという説があります。これを機にお祭りの神輿の風習が生まれました。宇治の大神輿は半被を着用していれば加わられるので、私も担いだことがあります。さすがに肩にずしりと重く、すぐに替ってもらいました。最後は宇治橋前に皆が整列して、遥拝するのも恒例です。

今年も十月十五日がちょうど満月にあたります。

月の満ち欠けで暦を刻んだ旧暦は、一日は新月、十五日はほぼ満月。伊勢神宮の神嘗祭も外宮が十五日の夜、内宮が十六日の夜行われるのも、月明かりの下でした。新暦に変わってからは、月明かりとお祭りは必ずしも一致しなくなりましたが、久しぶりに望月の下、厳かにお祭りが執り行われることでしょう。「後の月見」と呼ばれる旧暦九月十三日の十三夜は十月十一日。夜の月も愛でたい十月半ばです。

文 千種清美

